

「安平町まちづくり基本条例」制定へのプロセスは



おがさわら なおし
小笠原直治議員

質問 制定へのプロセスの進捗状況についてお聞きしたい。

答 弁 総合計画の重点プロジェクトとし、これまで役場職員による三つのワーキングチーム、まちづくり委員等で課題や改善点について一年間議論を重ね、原案作りに着手している状況である。

質問 まちづくり基本条例を制定しなければならぬ必要性を町民がどの程度理解していると考えているのか。

答 弁 町民の代表である「まちづくり委員」からご意見をいただいたながら、今後も広報で周知しながらご理解いただけるよう努力していきたいと考えている。

質問 基本条例の制定に当たり、まちづくり委員が係わっているが、その他のような人々により、どのようにまとめていくのか伺いたい。

答 弁 今後、条例の素案がある程度まとまった段階で、それぞれ関係する事項についてご意見をいただきたく機会を設けたいと考えている。多少時間が掛かっても住民との協働のまちづくりを将来にわたり実施していく根拠となる条例として、住民の心（気持ち）をまとめていきたいと考えている。

質問 「まちづくり基本条例」を作文で終わらせない為にも、条文の開示と精査・検討についてどのように遂行していくのか。

答 弁 内容の精査・個別条例の関係など、ワーキングチームにおいて検討し、その過程において、まちづくり委員会や重要政策専門部会で検

討していきたい。また、議会の役割については、協議方法も含め検討が必要となる。

質問 制定後の検証体制についての考えを明らかにされ

質問 少子化の中で集団的な保育・教育を維持するため施設の統合は避けられないと思うが、追分幼稚園の将来に向けての方向性について明らかにされたい。

答 弁 昨年の12月、追分保育園の理事・園長・役員の方と町長・副町長との懇談の場で、追分地区の保育状況の見直しなど意見交換がされ、保育園側から民間での「認定子ども園」に切り替える事なども申し入れがあり、今後の推移を見ながら協議と言うことになった。追分幼稚園の今後の

方向性については、このような事も視野に入れて考えていく必要があるものと思われる。

質問 早来子ども園、追分幼稚園の違いを明確にし、教育の狙いと内容を抜本的に改正、特色ある運営をし、保護者に選択の機会を与える様にされたい。

答 弁 追分幼稚園とはやきた子ども園の幼稚園機能は、共に学校教育法に位置づけられ、幼稚園教育要領に従って編成された教育課程に基づくもので、その考え方は大きく変わるものではない。教育

町立追分幼稚園の運営について

たい。

答 弁 まちづくり基本条例については、制定後の検証が必要となってくる。条例の理念が損なわれないように、社会情勢の変化に対応でき、条例の形骸化を検証する必要があると考える。

質問 幼稚園と子ども園の教職員の人事交流を行い、活性化を図り、教職員から園長への道筋を明確にすべきでないか。

答 弁 二施設の人事交流については、現在申し上げる状況にないので、提言として伺っておきたい。

質問 子ども園と幼稚園で交流を行い、それによって園児のレベル向上、競争意識、仲間意識、愛着心、連帯意識の共有が図られるのではないかとと思うが、交流を図る考えはあるか。

答 弁 日常活動等、教育課程の中に位置づけられるもので、どのようなものが可能なのか等、両園で今後検討していきたい。

ときわキャンプ場と鹿公園の利用について



たかやま まさひと
高山正人議員

質問 「ときわキャンプ場・鹿公園」の四年間の利用状況と施設のPR状況は。

答 弁 利用状況は、平成一八年を基準としてときわ公園キャンプ場で平成二十一年度百三十三人減、鹿公園で三百二十一人減。PRの状況は、

広報やホームページを利用したり、公園関係の雑誌も掲載してもらい、町民ばかりでなく広く町外にもPRしている。昨年度鹿公園にアスレチック健康遊具の設置やパークゴルフ場が完成したことから、広報「笑顔三月号」「あびら四月号・五月号」に連続掲載してPRに努め、道新や苫小牧民報でも紹介されている。

道にあるが、国道沿いにはない。あれば何かの機会に寄ってもらえる可能性があるのでは。良い施設のPRが色んなメディアに対してできていないのではないかと。

答 弁 今年も五社ぐらい雑誌社から問い合わせがあつて、訂正箇所を入れながら校正してもらっている。毎年三月ぐらいに六十校くらい近隣の学校にPRしている。現在五校の予約をもらっている。

案内看板については、道道入口の鹿公園キャンプ場・安平スキー場等に擬木種の看板が三箇所、ぬくもりの湯と併用して電柱に六箇所、国道についても同じ看板を六箇所設置している。

質問 看板は町全体の施設にも非常に有効なPRになるのでは。

答 弁 重点的に観光というキーワードに独自産業化を目指してやっていかなければ

ならない。今後は情報発信の仕方を中心に考え、市町村競争に打ち勝っていききたい。PRの仕方について投資が効率的に活かされて行くことを真剣に考えて、これらの看板や啓発のあり方も考えていく。



案内看板

第五回 臨時議会

平成二十二年六月二十九日に第五回臨時議会が開催され、提案された次の二件の案件を審議の結果、原案どおり全会一致で可決し閉会しました。

● 「財産の取得について」は、老朽化した除雪用トラックを取得するもので、内容は次のとおり。

- ・財産の種類 除雪トラクター〇トン専用車
- ・契約の相手方 苫小牧市 U Dトラックス北海道株式会社苫小牧支店
- ・取得の目的 町道除雪用除雪トラック
- ・取得価格 三千四百四十七千五百円
- ・取得時期 平成二十二年十一月
- ・支払方法 全額一括払い

● 「安平町立早来中学校校舎・体育館耐震補強工事請負契約の締結について」は、地震から生徒、教職員等の生命を守るための工事です。

- ・契約の目的 安平町立早来中学校校舎・体育館耐震補強工事
- ・契約の金額 五千九百三十二万五千円
- ・契約の相手方 安平町追分本町三丁目三十八番地 八木建設株式会社

はやきた子ども園 他 視察 ～総務常任委員会～

平成22年6月2日

三歳児 保育士二名体制にすべき

質問 & 意見

▲目の離せない三歳児が三〇名を超えているのに、保育士一人という現状は改善が必要では。

▲園の芝生部分・園庭・園内の畑には石ころやガラス片などが多く転がっている。対策はどうなっているのか。
▲園内のガラス張りの部屋

(光の庭)は高温になり過ぎるうえ、早くも雨漏りしているが、大丈夫なのか。

▲教室間の間仕切りの金具部分と折戸は危険。事故が起きる前に対応すべきでは。

▲子ども園前の通路端にある電柱は危険。無くすべきではないか。

▲アレルギーの子どもを持つ親御さんへ、できるだけ早く献立表を渡してあげるべきだが可能か。

早来・追分両児童館

▲追分児童館で実施している手作り情報はすばらしい。(障がいをもった人たちの使える施設情報&子どもが遊ぶ遊具、公園情報等)、この情報を取りまとめ、利用してもらえシステム作りを進めて欲しい。

三歳児 今は保育士一人配置で

答弁

▲国の基準上は(三歳児は二〇名に一人配置。幼稚園の子供が帰ると三〇名を割る現状)、一人の配置でいくしかな

い状態。一学期終了後、職員と副町長を交えて、運営について話し合いをする。

▲石ころなど改善すべき部分は全て六月末日までには改善する。

▲雨漏りについては調査し、終了致しました。

▲間仕切り等については、早急にドアを固定するなど、安全と教育面の二面から対応したい。

▲電柱を担当(所管)している方と調整します。

▲献立表については、現場にお願いはしてみますが、栄養士も大変で状況は厳しい。

▲追分児童館の情報共有の件については、ご要望に応えるように検討します。



奥野 高 です

小・中・高と追分で学び、大学は四年間追分から通い、教師として最初に赴任したのも追分でした。

九年間の教員生活に続き、苦小牧、静内、釧路、札幌での三十二年間の党の専従生活を終え、「少

しはのんびりふるさとで」と。しかし、思い通りにいかないのが人生。
幸いなことに健康



には自信がありますし、体力・気力もそこそこ(自負)。
地方自治体の本旨は「住民福祉の向上」、日本共産党員の原点は「人々の苦難解決」をモットーに、生活上へ皆さんと力を合わせます。

新人議員紹介

小笠原 直治 です

昭和三十四年に追分で生まれ、豊かな自然と多くの人達に囲まれ、地元の小・中・高で学び、卒業後旧国鉄追分駅に就職。そしてJR追分駅へと四十二年間、鉄道の輸送業務に係わってきましたが、五月に退職をし、現在は妻と二人暮らし。

六十年間お世話になったこの町への思いは誰にも負けません。地域の資源は人である。意欲ある人には無から有を生



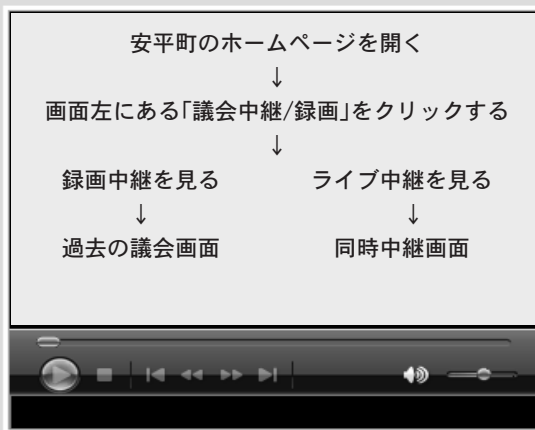
み出す力があります。意欲ある人と人が結び合うことで、みんなが支え合う町に、誰もが安心と希望が持てる「町づくり」に取り組んでいきます。

【議会事務局からのお願い】

議長宛の文書や案内状などは、議長の公務日程上の調整をする必要がありますので、議会事務局に送付くださるようお願いいたします。

町HPで議会中継が見れます。

議会映像



ご自宅にパソコンがなく、議会中継を見ることができない方は、早来・追分庁舎、早来・追分公民館、ぬくもりの湯で見ることができますので是非ご利用ください。

北海道町村議会議長会から表彰状

議長7年以上



泉田英吉前議長が、7年以上の永きにわたり、議会議長として職務に精励し、地域の振興発展に貢献されたことに対し、北海道町村議会議長会から表彰され、第4回定例会において山田議長から表彰状が伝達されました。

次の定例会は9月の予定です。
 どなたでも傍聴出来ます。

あとがき

地域の活性化を目指し開催された「みんなの徳の市」。広場にぎっしり並ぶテント。出席者は早来地区以外からも多く参加していた。この小さな広場の小さな取り組みは、きつと今できる精一杯の形。数時間のイベントではあつたがかき氷をおいしそうにほおばる子ども達や、手に沢山の袋を下げ談笑する人々を見ていて、この企画の意図を感じた。もちろん、反省会は必要だと思いますが。次は追分での開催。楽しみです。学校でも現状打破の試み。町内二つの中学校サッカー部が合同で中体連に参加。野球部も全員ではないが、町外一名を加え、軟式クラブチームとして全道大会に出場。部員不足を補う新しい取り組みに期待したい。少子化は子ども達のせいじゃない。



頑張りたい彼等を支える為に何が出来るのか。決断は私達、大人。現状の中で出来る何かを探す。地域の活性化を目指す事と同じ。

議会広報特別委員会
 副委員長 鳥越真由美